

南下古墳群位置図



上空からの南下古墳群

◎お願い

現在、石室は安全管理のため立ち入りを制限しています。

南下古墳群（古墳公園）・文化財センター（文化財事務所）へのアクセスマップ



・関越自動車道駒寄スマート I.C から約 5 分



（お問い合わせ先）

吉岡町文化財センター（文化財事務所）

【所在地】〒 370-3604

群馬県北群馬郡吉岡町南下 1322 番地 12

【電 話】0279-54-9443

【F A X】0279-25-7765

【休館日】月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）

祝日の翌日、年末年始

【開館時間】午前 9:00 ～午後 4:00

群馬県指定史跡

令和 5 年 9 月 8 日 指定

みなみしもこふんぐん 南下古墳群



（南下古墳群を構成する古墳の中で最も大きい円墳 A 号墳）

南下古墳群の概要

南下古墳群は吉岡町大字南下に所在する 6 世紀後半から 7 世紀末までに築かれた A 号墳から F 号墳までの 6 基の古墳の総称です。6 基の内 A 号墳から E 号墳までの 5 基の古墳は現在でも石室が残っており、中でも A 号墳と E 号墳の石室内には石材加工の際に引かれた赤色作業線（朱線）が多数残っています。また A 号墳の玄室壁面には漆喰が塗られた跡が残っています。朱線や漆喰の存在は前橋市総社町の宝塔山古墳にも見られますが、その他には全国的に見ても奈良県明日香村の高松塚古墳など数基しかありません。宝塔山古墳と A 号墳・E 号墳の築造には同一技術集団関わった可能性があります。

南下古墳群には古墳の築造研究に関する貴重な情報が数多く残されており、学術的に高い価値があると位置付けられています。

令和 5 年 10 月発行

A 号墳 — 7 世紀後半 —

A 号墳は二段築成の円墳と推定され、墳丘規模は径約 30 m、高さは南面で約 8 m です。石室はきりいしきりくみづみ截石切組積で、せんどう羨道とげんしつ玄室の境には見事に加工されたげんもん玄門があります。壁面には石材加工時の赤色作業線（朱線）や、漆喰の跡が残っています。



A 号墳全景



A 号墳石室 漆喰の跡



A 号墳石室



A 号墳石室 朱線の跡

B 号墳 — 7 世紀中頃 —

B 号墳は円墳と推定され、墳丘規模は径約 22 m、高さは南面で約 5.2 m です。石室は自然石のらんせきづみ乱石積で、玄門や奥壁の一部に截石を用いています。壁石に粘土を詰めた跡が認められます。床面規模に対して天井が高く、畿内の影響を受けていると考えられています。



B 号墳全景



B 号墳石室

C 号墳 — 6 世紀後半 —

C 号墳は円墳と推定され、墳丘規模は径約 15 m、高さは東面で約 4 m です。石室は自然石の乱石積で、東に開口しています。本古墳群の中では最も古い時期に位置付けられます。



C 号墳全景



C 号墳石室

D 号墳 — 7 世紀前半 —

D 号墳は円墳と推定され、墳丘規模は径約 13 m、高さは南面で約 3 m です。石室は自然石の乱石積で、羨道と玄室の境に 2 ないし 3 段に積んだ玄門があります。



D 号墳全景



D 号墳石室

E 号墳 — 7 世紀末 —

E 号墳は円墳と推定され、墳丘規模は径約 17 m、高さは約 2.8 m です。石室は精緻な截石切組積で、石材加工技術は A 号墳よりさらに進んだものです。各壁面には石材加工の際に引いた赤色作業線（朱線）が数多く残っています。



E 号墳全景



E 号墳石室



E 号墳石室 朱線の跡

F 号墳 — 7 世紀 —

F 号墳は円墳と推定され、墳丘規模は径約 21 m、高さは南面で約 4 m です。石室は埋没したままの状態にあると推定されます。



F 号墳全景